

美術・工芸・陶芸を学んだ 11月でした!

●美術工芸に関する講話とロクロ実演

11月2日(月)美術・工芸科1・2年生を対象に『美術工芸に関する講話』を実施しました。講師の先生は京都伝統工芸大学の工藤良健校長先生です。先生は、毎年波佐見町で開催されている全国公募展「めし碗グランプリ」の審査員長をされており、大学校でも陶芸の指導に日々取り組まれています。講話では、美術工芸の作品をとおして、工芸作品の解説や大学校で指導されている様子を教えていただきました。また、茶碗や湯飲みや箸、仏壇やトイレの便器や洗面台など、何気なく使用しているものにも多くの工芸品や陶磁器が身の回りであることを気づかせてくれる良い機会となりました。更に、ロクロ実演では、急須の作り方や湯飲みの速びきを披露していただき、あっという間に出来上がっていく様子を見学し、**無駄な動きが全くない匠の技**に感動しました。ちょうど1、2年生とも授業でロクロ成形に取り組んでいるので、自分たちももっと上手になりたい!と感じた生徒も多かったようです。(美術科 立井 匡樹)

●美術工芸校外作品展開催

11月14日(土)15日(日)の2日間、イオン大塔ショッピングセンターの2階空き店舗を利用して、美術・工芸科2年生の校外作品展を実施しました。当初、この校外展は波佐見町での実施予定でしたが、美術・工芸科の普段の活動をできるだけたくさんの方に知ってもらうため、交通の便や集客面を考慮イオン大塔店での初開催となりました。今回、受検を控えた中学生に美術・工芸科をアピールすることが大きな目標でしたが、**2日間で中学生19名を含め300名ほどの観覧**があり、少しは目標を達成することができたと思います。「2年生でよくここまで制作できましたね」「レベルの高さにビックリしました」という多くの声を頂きました。会場を提供していただいたイオン大塔店の関係者の方も、普段とは違う様子に喜んでいただけました。これからも、このような活動を通して、美術・工芸科の様子を多くの方に伝えていければと思います。(美術科 岩永聡志)

●第1学年陶芸教育見学会

11月13日(金)1年生全員を対象に、波佐見町内の陶磁器に関する史跡や工場を巡る陶芸教育見学会を実施しました。午前中は、**波佐見町観光ボランティアガイドの方々**に引率していただき、波佐見町陶芸の館、世界の窯公園、中善(陶磁器会社)、西の原工房をグループに分かれて見学しました。陶芸の館では、展示品を鑑賞しながら波佐見焼の歴史について学び、陶磁器工場では、職人の方々によって、波佐見焼が大量生産されている様子を見学しました。また、波佐見町観光協会のご好意で西の原工房近くの旧中央小学校講堂で上映されている**波佐見「光絵付」(プロジェクションマッピング)**も鑑賞することができました。午後からは佐賀県立九州陶磁文化館と、波佐見町村木郷にある、国指定史跡「畑ノ原登り窯」を見学しました。陶磁文化館では特別企画展「明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代」が開催中で、明治期にウィーン万国博物館へ出品されたり、皇族・華族が使用したりした豪華な陶磁器を鑑賞することができました。また、畑ノ原登り窯跡では、波佐見焼が始まった当時を再現した窯を見学することができました。

生徒たちは見学会全体を通して、メモを取りながら熱心に説明を聞いたり、貴重な展示品を興味深く鑑賞したりしながら、波佐見焼への理解を深めた様子でした。また、波佐見出身の生徒たちにとっては地元の歴史や良さを見つめなおす良いきっかけとなったようです。



(美術科 石田 綾)



〈校訓〉 自律・積極・究理

波高通信



〈スローガン〉「チーム波佐見」～常に前進 常に一步～

第20号 平成27年11月30日発行

校長室より 『あと一步だけ 前に 進もう』



NHKテレビに「プロフェッショナル 仕事の流儀」という番組があります。私の好きな番組の一つで、そこに登場するその道のプロ達の働き方や生き方に感動し、今の自分を振り返り、反省することがたびたびあります。そして、番組のテーマ曲である「Progress」(スガシカオ 作詞・作曲・歌)の「あと一步だけ、前に 進もう」という歌詞に大変勇気付けられています。「明日から自分もがんばらねば」という気持ちになります。

今月は「チーム波佐見～思いやりの輪で繋ごう～」というテーマのもと、文化発表会を開催しました。生徒会執行部・文化委員会を中心に、全校生徒の心が一つになった素晴らしい発表会となりました。私は、文化発表会は全校生徒による共同作業であり、成功するかしないかは生徒の皆さんの見る態度や聞く態度にかかっていると皆さんに話しました。これまで頑張ってきたクラスや文化部に対してきちんとした態度と盛大な拍手で労をねぎらって欲しいとお願いしましたが、全員がその通りにしてくれました。文化発表会が大成功したのも、皆さん一人一人がそれぞれの役割をしっかりと果たしたからだだと思います。

「合唱コンクール」は、本校にとって初めての試みでしたが、1、2年全クラスが気持ちを一つにして、それぞれが選んだ歌に心を込めて大きな命を吹き込みました。「各部の発表」は、ステージ発表、展示とも、日頃の活動の成果を存分に表現したものになっていました。「展示」の、デザイン部・陶芸部・美術部の「作品」、商業クラブと情報処理同好会の「波佐焼流通の研究」、図書同好会の「きのこの道」、科学同好会の「活動の歴史」、家庭クラブの「子ども向け手作り弁当」は、工夫のあとが随所に見られ、それぞれの魅力と持ち味を十分に活かしたものでした。また、「ステージ発表」の、商業クラブと情報処理同好会の「波佐見焼流通の研究」、美術部の「活動内容の動画」、イングリッシュクラブの「スピーチ」と「ホラー映画」、放送部の「新チームへのインタビュー」、吹奏楽部の「響人～心に伝える音楽の響～」は、各部のクオリティの向上を感じました。展示、ステージ発表ともに驚きと感動の連続でした。

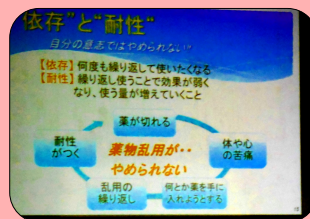
さて、文化発表会を境に3年の本山翔也さんが生徒会長を退任し、2年の森本航さんが新生徒会長として生徒会をリードしてくれることになりました。本山さんは役員とともに全校生徒をよくまとめ、明るい雰囲気为学校づくりに貢献してくれました。退任のあいさつは「どう引っ張っていけばよいか悩みましたが、すべての行事が成功したのはみんなの協力のおかげです」と全校生徒に対する感謝の言葉で結びました。また新会長の任命式では、森本さんから「波佐見高校の『さらなる高み』を目指し、新しい伝統づくりに挑戦します」と力強い決意表明がありました。役員だけでなく全校生徒が力を合わせ、これまでの通りのやり方に加えて、みんなで知恵を出し合い新しい試みにもチャレンジして欲しいと思います。来年は、波佐見高校創立40周年です。体育祭、大文化祭を始め、生徒会行事の一つ一つを、創立40周年をお祝いするとともに50周年に向かって力強く歩んでいくスタートラインとなるような内容にしていきたいと思います。チーム波佐見のさらなる高みを目指し、「あと一步だけ、前に 進もう」(野田定延)



薬物乱用防止講話

『危険ドラッグ』低年齢化！

11月18日(水)長崎税関から講師を招き、薬物乱用防止の講話をしていただきました。「薬物乱用」とは治療目的以外の使用、違法薬物の使用、規定量以上の使用の事をいいます。甘い誘惑で、体も人生もぼろぼろになり(薬物患者の写真は強い印象を受けました)、お金は反社会勢力の資金源になっています。また、麻薬の多くは国外から密輸されており、諸外国では死刑も含め厳しい罰則があるようで、外国旅行でだまされて運び屋となってしまう、刑に服している人もいと聞きました。先日「小学生が大麻を使用」というショッキングなニュースが流れました。最近SNSを使って薬物や危険ドラッグを入手するそうです。つまり、今後ますます我々の身近で、どこでも誰にでも起こりうる事だという認識が必要になったということです。また、「タバコは薬物の入り口」と言われておりますので、併せてご指導いただければと思います。(生徒指導主任 川瀬啓典)



●長崎県商業教育合同販売実習 『いらっしゃいませ～』

11月23日(月・祝)JR長崎駅前かもめ広場において開催された販売実習に参加をしました。県内で「商業」を学ぶ8校が集まり、それぞれの地域の特産物や商品開発したものなどを販売しました。本校からは、**商業クラブの生徒7名**が、自分たち(商業科)で作った**お米と波佐見のお茶・紅茶、波佐見焼き**を持っていきました。お米は、野々川地区の棚田で種まきから脱穀まで地域の方々のアドバイスや協力を得て作ったものです。

連休最後の日であり、かもめ広場は買い物客や観光客で賑わっていました。「いらっしゃいませ～」の呼び込みと同時に商品のPR、試食・試飲を渡すタイミング、商品の受け渡しなど、実際にお客様を相手に活動でき、有意義な実習となりました。

生徒は、「1日中立ちっぱなしで疲れた～」と話していましたが、大きな達成感を味わうことができました。また、他の高校生と一緒に実習できて、よい刺激にもなりました。余談ですが、この販売実習で購入された方が直接業者に連絡をされ、注文が入ったとのうれしい報告もあり、お客さまと波佐見町とを結ぶ架け橋にもなれました。商業クラブは、更に波佐見町の発展に貢献すべく、「波佐見町」との地域交流を目標に活動していきます。ありがとうございました。(商業科主任 丸屋 陽子)



●波佐見高校鴻の巣塾・心に響く人生の達人セミナー

～～波佐見高校生に期待するもの～～

11月25日(水)「波佐見高校生に期待するもの」と題して、長崎女子短期大学学長の浦川末子先生によるセミナーが行われました。幼少の頃からご両親に厳しく育てられた浦川先生。そのことにとても感謝されているそうです。

「人間は教えられていないことは、いくつになっても知らない。やったことのないことは、いくつになってもできない。たくさん教わり、経験している人間は、のちに強くなる」と、教えることの大切さを話してくださいました。

また、「立きながら体に刻んだ経験が、のちの人生を支えることになった」というお話や、親や先生の言葉をしっかりと受けとめなければならないこと、自分から先に挨拶をすることや頭を下げることの大切さについてのお話がありました。

最後に、親子の信頼関係が他の人との信頼関係を作るもとになるということや、自分が親になった時、全力で子どもを守り、絶対に手放さない親であってほしいということを生徒たちに教えてくださいました。浦川先生渾身のメッセージは愛情に満ちたもので、生徒たちのみならず、私たち大人の心にも大きく響きました。多くのことを学ばせていただいた貴重なご講演でした。(図書研修部 柴田理恵)



第29回佐世保地区1年生大会 優勝 県大会 準優勝

11月17日から開催された第29回佐世保地区1年生大会において、3試合を7回コールドで制し**見事優勝**しました。また、今年から始まった第1回1年生県大会では、各地区の優勝校(今年度は持回りにより長崎地区のみ2校)が集い、11月15日(日)長崎県営野球場(長崎市)で熱戦を繰りひろげました。本校は準決勝で長崎商業高校相手に、**劇的な9回サヨナラで勝利し決勝へ進出**。決勝戦では長崎日大高校相手に惜しくも4対9で敗れ準優勝という結果でした。この経験を通して、今後の課題も見い出せましたし、何より大きな自信を付けてくれたと思っています。3年間の公式戦の中で、同級生全員がベンチに入って戦える唯一の大会です。いい思い出にもなったのではないかと思います。



《大会結果》第29回佐世保地区1年生大会

一回戦 ●7-2 佐世保高専 二回戦 ●9-2 九州文化(7回コールド)
準決勝 ●14-0 佐世保商業(7回コールド) 決勝 ●13-6 佐世保実業(7回コールド)

第1回1年生大会 長崎県大会

準決勝 ●4-3 長崎商業(9回サヨナラ) 決勝 ●4-9 長崎日大
厳しいシーズンオフの練習も折返しにきておりますが、選手一人ひとりの意欲が高まり、充実して頑張れる材料になりました。チーム全体が更なる進化を目指して頑張ります。(野球部顧問 得永 健)



第1回合唱コンクール

心に響くハーモニーを目指して！

11月6日(金)の文化部発表会午前の部で、1、2年生による第1回合唱コンクールを行いました。全員が音楽選択者ではない中、どこまで仕上がるのか?練習はうまくいくのか?など不安や心配なことも多かったのですが、合唱コンクールに対するクラスの温度差はあったものの、本番が近づくにつれて一生懸命取り組んでいる様子が見られました。見事上位3位までに入賞したクラスは、時間をうまく利用したり、パートの割り振りを工夫したりと合唱を成功させるために、10クラスの中でも特にクラス全員が一丸となって練習に取り組んでいたのではないのでしょうか。しかし、どのクラスもステージに上がるまでの行動、歌うときの姿勢は素晴らしいものでした。「音程は正しく、きれいなハーモニーで、心に響く歌声で・・・」などの音楽性の面では、まだまだ未熟なクラスもありましたが、試行錯誤しながらクラス全員で一つのことに取り組むことは、**クラスの絆を深めるためにもよい機会**になったことと思います。休み時間やLHRの時間に教室から歌声が響く校舎は心地よい風が流れ、とても穏やかな気持ちになりました。



歌うことが苦手な生徒もいたと思いますが、クラスの仲間と「**気持ちを合わせて声をそろえ、息をそろえ、ひとつの曲を完成させる**」ということは学生時代にしかできないことです。苦手なことでも逃げずに、ひたむきに一生懸命取り組むことで充実感、達成感を味わえると思います。来年度は全員が充実感、達成感を味わえるように、今年以上にクラス一丸となって頑張ってもらいたいところです。(音楽科主任 大小瀬泉子)



12月の行事予定

1・2年生の面談週間(15日～21日)

12月4日(金)まで 期末考査	12/7(月)～10日(木) イターナティブ(2年)
12月11日(金) 陶芸教育(2年)	12月14日(月) 主催者教育講演会
12月16日(水) 陶芸教育(3年)	12月16日(水) イターナティブ 発表会(2年)
12月22日(火) 球技大会	12月24日(木) 終業式

感謝無敵
～感謝に勝る能力なし～
(一燈園 石川 洋先生) 得永 健



野球部推戴式を開催 ”心”一つに甲子園

現在ベスト8 7/23(木)全校応援